
自殺輪廻

速水 学

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自殺輪廻

【Nコード】

N0948M

【作者名】

速水 学

【あらすじ】

彼はただ、死ぬことを繰り返す。
死ねない。死ねない。

彼は気付かない。

俺は今、死のうとしていた。
理由は簡単。死にたいからだ。

通り過ぎていく人が俺を見る。人は俺を殺そうとしていた。

その目つきはきつと、
今の俺と相違はないのだろう。

彼らの目には憎悪と、興味と、ほんのちよつとの迷い。
その迷いすら憎悪に気圧されて隅に丸まっているように思える。
彼らは俺を殺す機会を窺っているのだろう。

俺は静かに下界を見下ろす。
ビルの頭が小さく、それこそ蟻のように小さく見えるだけ。
静かに、少しだけ体を前に傾ける。すうっと意識が遠のいていく。

何時間も経ったのか。それとも数秒なのか。
俺は目を開けて、目の前に迫った道路を見、そこで目を覚ます。

何度も見た夢。夢だと気付けない夢。
俺はいつも、そこで目が覚めて死ぬことが出来ずにいる。

人が見ている。見ている。
俺を殺すのだろう。手に持っているのはカルテ？ いや、きっとナイフだろう。

俺はまた死ぬことを考える。考える。考える。

考えて、どうも思いつかなかったので人を殺そうかと考えた。傍にあった果物ナイフで刺してみる。死なない。血も出ない。

急に興味を失ったので、今度は自分に刺してみる。

痛い。傷口からは脈打つ心臓が見えた。傷を広げ、それを取り出して机に置く。

自分は狂い始めているのだと思う。時間がない。

今日はこのくらいにして死んでおこう。

心臓を握りつぶす。いやな音と色の中に埋もれた心臓は、もう生きてはいなかった。

そこで目が覚めた。いけない。また夢だと気付けなかったのだ。

自分はおかしい。きっとこの世界の人間ではない。早く排除なくては世界の秩序が崩れてしまう。

自分を維持するには多数の犠牲を払わなければならない。

そうだ、維持するためのだから自分を捨てればそんなことはない。

結論はいつも死に達する。

俺は自分を殺す術を考え始めた。思いつかなかった。

薬はない。縄もない。

ならば舌を噛み切るのがいい。そうしよう。

舌の付け根に歯を当て、思い切り噛み締める。噛み締める。噛み締める。

噛み締めて、噛み締めて、また目が覚める。どうしてだろう。

寝てもいないのに、目が覚める。

周りが悪い。世界が悪い。自分のことを認めない世界が悪いのだそれ以外にない。

僕はどこへ行けばいいの？泣いてもいいのかな。

何もない廊下には血の跡があつて何もないはずなのにみえるのは何故だろうと考える暇もなく僕は血を辿り廊下を後にしますそして血が辿り着いたのはひとつの部屋でしたそこには僕が眠っています僕は彼と一つにならなくてはならないのです誰が決めたのかは分からないけれどしなければならぬ決まりです僕は彼に重なるようにしてベッドに入りました彼は死んだように冷たいので僕は笑って泣きましたお母さん僕は悪い子でしたごめんなさいお姉ちゃんお父さんごめんなさいごめんなさい。」

「今日は顔色が良いようです、先生。」

看護師である彼女は患者の体温を測りながら言う。

「今日で2ヶ月目か。あいかわらず目は覚めないのか？」

「はい・・・身寄りもありませんから、このまま行けば安楽死は免れません。」

彼女は少し伏し目がちに言う。

「そうか。ではまた変化があれば知らせてくれ。私はもう少し仕事を整理してから帰ることにするよ。」

「分かりました。お疲れ様です。」

「それと、患者の汗を拭いてやってくれ。少し頬が濡れているようだ。」

（後書き）

言いたいことを言葉にするのはとても難しいです。

狂った感じを出すにはまだまだ未熟です。精進いたします。

彼はきつと寂しかったのだろう、と思います。

衝動的な文ですが、想像しやすいように作ったつもり・・・です！

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0948m/>

自殺輪廻

2011年1月19日07時51分発行